

# 木更津工業高等専門学校

## 平成 21 年度 地域共同テクノセンター活動報告

### I 平成 21 年度活動の結果と点検評価

#### 1. 新たな活動

##### 1. 1 小学校教員への教育支援

#### 2. 継承した事業活動

##### 2. 1 教職員 OB による地域振興

##### 2. 2 外部資金獲得に関する啓蒙活動

##### 2. 3 木更津工業高等専門学校技術振興交流会への協力

###### 2. 3. 1 テクノフォーラム

###### 2. 3. 2 技術振興交流会分科会

###### 2. 3. 3 レベルアップ講座

##### 2. 4 生涯教育, 出前授業など

###### 2. 4. 1 2009 サイエンススクエア

###### 2. 4. 2 出前授業

###### 2. 4. 3 公開講座

###### 2. 4. 4 テレワークセミナー

##### 2. 5 外部資金の確保

###### 2. 5. 1 共同研究, 受託研究, 奨学寄附金及び受託試験

###### 2. 5. 2 技術相談事業

##### 2. 6 その他外部機関等との交流

###### 2. 6. 1 高専間・大学間交流

###### 2. 6. 2 市町村との交流

###### 2. 6. 3 県との交流

###### 2. 6. 4 地域交流 (来校)

##### 2. 7 広報事業

###### 2. 7. 1 メディア作成

###### 2. 7. 2 メディア発信

###### 2. 7. 3 公的機関の広報紙発信

#### 3 ラボの稼働状況

#### 4 課題

### II 運営委員会の実績

### III 運営委員会委員と事務部担当

# I 平成 21 年度活動の結果と点検評価

## 1. 新たな活動

### 1. 1 小学校教員への教育支援

教育支援は、8月18日に、近隣の木更津市立祇園小学校教員を対象に「算数研修会」として開催された。これは、木更津高専の数学を主研究分野とする教員が、高専と違い科目全般を受け持つ必要がある小学校教員に対して、「算数」の特色ある教育方法を紹介するものである。

当日は、地域共同テクノセンター長の挨拶と学校説明の後、鈴木道治准教授による『学び合い』による模擬授業が実践された。具体的には、高専における『学び合い』の実践例の紹介と『学び合い』の考え方を述べた後、祇園小学校の先生方を中学生と見立てて、中学3年生が学ぶ平方根を題材にした『学び合い』の模擬授業を行った。

『学び合い』を提唱した上越教育大学の西川先生による『学び合い』の手引書（超短縮版）を事前に読んでいただいたため、実践の終了後は現実の教育現場に基づいた質疑応答と意見交換が活発に行われ、双方にとって実り多い研修会となった。

この活動を契機に、小学校教員へのバックアップ体制の構築に向けた取り組みを積極的に展開する予定である。



図 1.1 模擬授業を行う鈴木准教授



図 1.2 『学び合い』実践の場面

## 2. 継承した事業活動

### 2. 1 教職員 OB による地域振興

平成12年に地域共同テクノセンターが設立され地域連携活動を活発にしてきたが、更なる活動の重要性を認識し木更津高専技術振興交流会を平成16年に設立した。その後の5年間で、本校の活動が地域に高く評価され、共同研究の成功事例も増えてきた。しかしながら、地域連携活動の業務は際限なく増え続ける兆候が見え始めていることも事実である。もちろん、地域連携活動には教育に生かせる活動も多いが、あまりに業務が繁多になれば本務である教育活動にも支障を起こしかねない。

教育活動とのバランスを保ちながら、ますます地域共同業務を活性化させるために、学校の内部事情をよく知った人材に連携コーディネータを依頼する必要がある。そこで、教職員OBを地域企業・社会との連携コーディネータとして依頼し、有用な人材の力を地域社会と高専のために活用する提案をしたところ、活動予算を得ることができた。

主な地域連携活動の内、OB教員に委託する業務として適している業務は、

- 1) 県との情報交換・連携業務。主に東葛地区での技術相談・産業振興センターとの連携。
- 2) 出前授業・各種セミナーのコーディネータ業務。
- 3) 民間からの技術相談に対するコーディネータ業務。

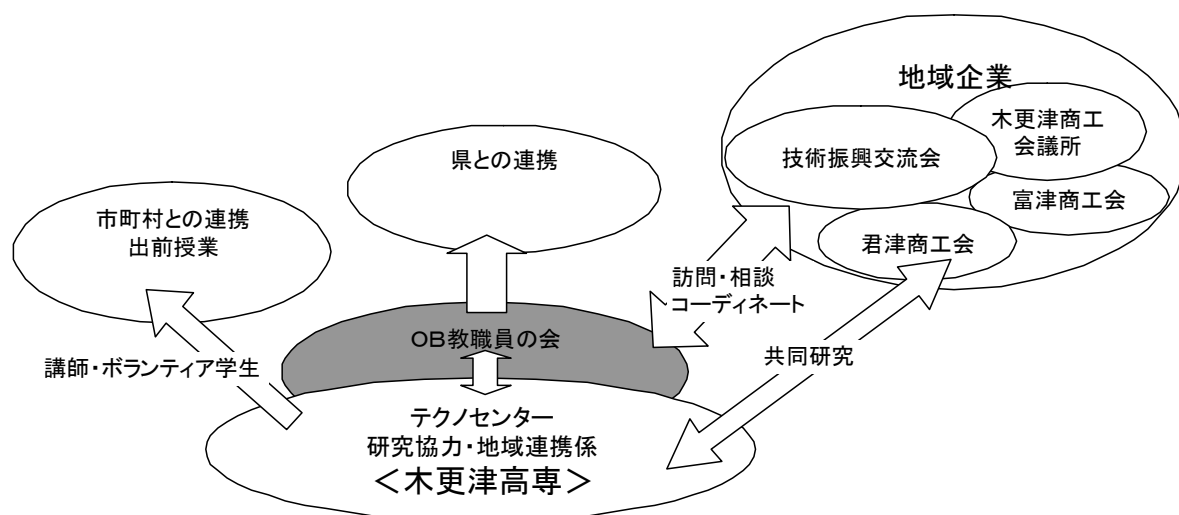


図2.1 プログラムの概略

などであり、これら地域連携業務を、平成19年に発足したOB教職員の会に委託するプログラムとして申請し採択された。本プログラムの概略を図2.1に示す。

今年度の本プログラムの実施によって、得られた結果の要約を以下に示す。

1. 県内の市町村（木更津市、市原市、袖ヶ浦市）との連携を行った。特に、従来連携等をあまり行っていないかつ臨海工業地帯のある市原市で重点的にPR活動をして頂いた。市原市では中小企業サポート事業を実施しており、市内中小企業との連携依頼があった。さらに、市原商工会議所からは地域力連携拠点事業パートナー協力依頼があった。
2. 圏央道の開発が進む外房地区（特に茂原市）への展開を行った。商工会議所等の反応も良いことから、今後は技術相談の増加や共同研究等への発展が期待される。
3. 技術振興交流会会員の地域企業を廻り、技術相談等を行った。企業においては、技術相談の方法及び研究分野の詳細がわかったと好評だった。また、本校OBのコーディネータなので、企業の工場等を直に見学し技術相談の内容を聞くことが出来たのが大きかった。

このように、非常に良い評価を得た。

## 2. 2 外部資金獲得に関する啓蒙活動

平成20年の世界同時不況が、予想通り平成21年度も継続した。本校の3本柱（教育・研究・地域貢献）の一つである研究について、資金不足による停滞が危惧された。そこで、科学研究費の申請を積極的に行うように全教員にお願いすると共に、競争的資金獲得に向けての説明会を継続実施した。

### 【点検評価】

地域共同業務を活性化させるために、教職員OBを地域企業・社会との連携コーディネータとして依頼し、本校の研究力・技術力などをPRして頂いた。その結果、新たに本校への関心を持たれた企業が大幅に増えた。今後は、共同研究等への発展を目指すために、現教職員も学協会活動等によるさらなるPRを積極的に展開する必要がある。

科学研究費の申請・独立行政法人科学技術振興機構などの競争的資金獲得の必要性について、学校全体の意識が高まった。また、学校全体で対応する必要のある大型競争的資金獲得に向けて、キックオフができた。これら資金の獲得に向けて、積極的に申請して行くことが必要である。

特に、1章に示したように生徒・学生の理系離れが叫ばれる中、理科教育に対する小学校教員へのバックアップは急務である。したがって、この方面での大型競争的資金獲得に向けての活動も必要と思われる。

## 2. 3 木更津工業高等専門学校技術振興交流会活動

参考：木更津工業高等専門学校技術振興交流会 2009 年度報告  
(担当：大橋、大野、上村 各副センター長)

### 2. 3. 1 テクノフォーラム

例年に倣い2回開催された。今年度は大橋副センター長が主担当になり企画を立てた。

表2. 1 平成21年度テクノフォーラム講演内容

回数	講演内容 (講師)	日時・参加人数
11回	①「日本の空港」 講師：国際協商株式会社 代表取締役社長 小林久雄 氏 ②「最近の旅客機における空力技術」 講師：木更津工業高等専門学校 機械工学科 教授 石出忠輝 氏 ③「羽田D滑走路建設現場を見学して」 講師：木更津工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授 青木優介 氏	10月29日(火) 実施 参加者92名(内40名学 内)
12回	①「メンタルヘルス管理の基礎」 講師：(独) 労働者健康福祉機構 千葉産業保健推進センター 所長 能川浩二 氏 ②「こんなに多い人間軽視デザイン」 講師：木更津工業高等専門学校 機械工学科 教授 丸岡邦明 氏 ③「視覚計算と脳の可塑性」 講師：木更津工業高等専門学校 情報工学科 准教授 米村恵一 氏	3月9日(火) 実施 参加者95名(内58名学 内)

### 2. 3. 2 技術振興交流会分科会

委員長会議が11月5日に開催された。

なお、分科会委員長は本校教員が担当しており、内容については、各分科会の議事要旨にまとめられている。また、「木更津工業高等専門学校技術振興交流会 2009 年度報告」にリストがまとめられている。

### 2. 3. 3 レベルアップ講座

今年度は、レベルアップ講座の企画・準備を積極的に展開した。レベルアップ講座の企画立案は、技術振興交流会員の皆様からの意向を聞いた上で、要望のある講座を企画する手順が本来の方法である。しかし、今年度は時間が限られていたため、本校教職員が実施可能な13講座を提案し、会員の皆様にご案内することにした。

レベルアップ講座は、規則上で会員3名以上の申し込みが無いと開催できないため、残念ではあるが実施できレベルアップ(ミニ)講座は無かった。そこで、第12回テクノフォーラムにて、会員の希望するレベルアップ(ミニ)講座テーマのアンケート調査をした。

## 【点検評価】

フォーラムは例年どおりの実施であるが、分科会の回数が減少してきた。また外部からの参加者が少なくなっていることも指摘されている。レベルアップ講座は、13講座開設したが実施されたものが無かった。このことから、レベルアップ(ミニ)講座の希望テーマについてのアンケート調査結果を基に、内容を検討し実施する必要がある。

一方で、技術振興交流会の存在は外部評価等では高く評価されており、また地域に根ざした高専を掲げる上では必要不可欠な存在である。そこで、21年度に実施された学校全体の外部評価での指摘事項改善をベースに、今後の活動内容を検討する必要がある。

## 2. 4 生涯教育, 出前授業など

### 2. 4. 1 2009 サイエンススクエア

このサイエンススクエアには、高専機構本部より依頼を受け、2005年度から継続して参加している。本校のテーマは毎年人気が高く、今年度も表2.2に示す企画で、国立科学博物館でのサイエンススクエアに参加予定であった。参加教職員およびアシスタント学生の準備も整っていたが、新型インフルエンザの流行による本校学生の罹患等もあり、高専機構本部等からの提案もあり直前に中止とした。

表2.2 2009 サイエンススクエア実施予定企画名

企画名	万華鏡を作ろう
	君にも作れる光通信

### 2. 4. 2 出前授業

出前授業のリストを表2.3に示す。

表2.3 出前授業リスト

月 日	出前先	テーマ	参加人数	担当者
7月7日	木更津第一中学校	万華鏡と光の性質	100名	高橋(邦)
7月24日	清見台公民館	ステンドグラス風車	25名	高橋(邦), 嘉数
8月25日	木更津商工会議所	ウインドカーの製作	小学生: 32名 保 護者20名	板垣, 清水, 伊藤, 学生:7名
8月25日	木更津商工会議所	ペットボトルロケットの製作	小学生: 33名 保 護者21名	金綱, 石出, 高橋(美), 歸山, 高橋(秀), 学生:9名
10月2日	長浦中学校	万華鏡と光の性質	115名	高橋(邦)
11月16日	根形中学校	君にもつくれる光通信	58名	栗本, 東, 白木
12月5日	平川公民館	紙飛行機づくり	15名	高橋(邦)
12月2日	長浦中学校	ゲルマラジオ	100名	飯田, 石川, 今村, 上原, 大 野, 大澤, 岡本, 小平, 立石
12月14日	中郷中学校	ゲルマラジオ	17名	飯田, 大澤, 柏木
12月18日	中郷中学校	万華鏡と光の性質	13名	高橋(邦)
1月16日	大和田小学校	紙飛行機づくりと科学マジック	15名	高橋(邦)

### 2. 4. 3 公開講座

公開講座の実施リストを表 2.4 に示す。公開講座は 17 講座で件数はやや減少であるが、新型コロナウイルス等による中止がなければ増加する予定であった（平成 20 年度 20 件、平成 19 年度 26 件、18 年度 31 件、17 年度 26 件、16 年度 14 件、15 年度 15 件、14 年度 10 件）。アンケート結果によれば、やや満足も含めた満足度は、90.1%であった。

表 2.4 公開講座・オープンセミナーの実施実績

NO	講座名	受講対象者	学科等名	代表者	受講定員	受講者数
1	陸上競技教室 ～早く走るための「コツ」～	小学生	人文学系	坂田洋満	30	77
2	楽しいパソコンセミナー～初心者のためのパソコン教室～	一般	教育研究支援センター	倉持憲司	20	24
3	エビやメダカを飼ってみませんか	小学校高学年以上	環境都市工学科	大木正喜	10	8
4	あなたに宅地選びのコツを教えます！ －実例に基づく地盤・地形データと路線価の見方－	一般	環境都市工学科	鬼塚信弘	5	6
5	第三種電気主任技術者試験のための直前講座	一般	電気電子工学科	上原正啓	10	4
6	初心者のためのデジカメ教室－写真の撮り方と印刷－（第1回）	一般	教育研究支援センター	金井太一	10	14
7	柔道ってどんなもの	小学生以下	人文学系	清野哲也	20	19
8	自転車のお手入れ	小学校高学年以上	教育研究支援センター	立石友二	10	4
9	牛乳ミニパックで橋づくり	小学2～4年	環境都市工学科	佐藤恒明	5	6
10	青少年のためのおもしろサイエンス	小学4年～中学生	基礎学系	相川正美	64	57
11	移動ロボット製作教室	小5～中2	電子制御工学科	泉 源	15	15
12	簡単なラジオの製作	小・中学生	電気電子工学科	石川雅之	10	10
13	プログラミングの知識なしでマイコンを動かそう	中学生	電子制御工学科	鈴木 聡	10	2
14	地震ってなに？－ペットボトルを使用した砂の液化化模型実験の体験－	小学校高学年以上	環境都市工学科	鬼塚信弘	20	5
15	パソコンでプレート彫刻～オリジナルキーホルダー作り～	一般（中学生以上）	教育研究支援センター	湯田雅紀	10	4
16	初心者のためのデジカメ教室－写真の撮り方と印刷－（第2回）	一般	教育研究支援センター	金井太一	10	14
17	写真入りの年賀状を作ろう ～初心者のためのパソコン教室～	一般	教育研究支援センター	高橋美喜男	20	16

## 2. 4. 4 テレワークセミナー

木更津市との協働事業であり、10月から12月にかけて実施する市民講座である。実施実績を表2.5に示す。今年度テーマ数は5件（平成20年度6件、平成19年度8件、18年度11件、17年度10件、16年度14件、15年度16件、14年度8件）であり昨年度から減少した。アンケートによる満足度は97.4%であった。

表2.5 テレワークセミナー実施実績

	講座名	実施時期	受講対象者	学科等名	担当者氏名	受講定員	受講者数
1	レゴロボット(第1回)	11月1日(日)	小学生	電子制御工学科	鈴木 聡 星野真紀	10	10
2	パワーポイントでアルバムを作りましょう!	11月7日(土)	高校生以上	情報工学科	東 雄二	18	5
3	インターネットとブログ	11月8日(日)	一般	電気電子工学科	飯田聡子	18	17
4	レゴロボット(第2回)	11月21日(土)	小学生	電子制御工学科	鈴木聡 高橋美喜男	10	7
5	コンクリートでつくるミニクリスマスツリー	11月22日(日)	小学生および保護者	環境都市工学科	青木優介	10	3

### 【点検評価】

出前授業や、テレワークセミナーは減少傾向にあり、それぞれの担当者がこれまでの参加人数を考慮してテーマを精査している傾向にある。また理数大好きプランが昨年度で終了したにもかかわらず、各中学校からの要求は減少していない。今後は、本校での予算立てと、実施方式の検討が課題である。

## 2. 5 外部資金の確保

### 2. 5. 1 共同研究、受託研究、奨学寄附金及び受託試験

共同研究、受託研究、奨学寄附金及び受託試験について、平成14年度からの実績を表2.6に示す。共同研究は年々増加していたが、本年度になり件数が減少して11件である。また、金額が半減している。受託研究については、高い水準を保っている。この中には、科学技術振興機構（JST）のシーズ発掘試験も含まれている。奨学寄附金の件数は昨年度に比べるとほぼ同等であるが、金額は大幅に増加しているが、景気が低迷している影響で金額は減少している。

表2.6 外部資金

年度	共同研究		受託研究		奨学寄附金		受託試験
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	金額(千円)
H14	1件	2,000	0件	0	16件	11,563	353
H15	3	5,600	2	1,250	16	9,180	636
H16	7	11,360	1	105	19	12,930	152
H17	9	13,110	3	1,618	18	10,900	125
H18	9	15,190	1	1,180	23	15,430	187
H19	13	19,725	1	1,180	16	13,637	718
H20	15	20,525	5	11,331	18	9,409	404
H21	11	10,450	3	11,498	17	14,188	(注)

(注)実習工場改修のため実施せず。

※ 端数切捨て

科学研究費補助金の採択状況を表 2.7 に示す。科学研究費補助金は、採択件数・金額共に減少している。

表 2.7 科学研究費補助金（含む継続）

年度	基盤C		奨励		若手B		若手(スタートアップ)		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成14年度	3(1)	5,100			2	1,900			5(1)	7,000
平成15年度	1(2)	2,500			3(1)	5,400			4(3)	7,900
平成16年度	1(2)	2,000	1	750	1(4)	3,900			3(6)	6,650
平成17年度	0(2)	1,300	2	1,440	1(2)	3,400			3(4)	6,140
平成18年度	5(1)	10,200	1	680	1(1)	3,500			7(2)	14,380
平成19年度	0(6)	4,800	7	3,620	2(2)	6,100			9(8)	14,520
平成20年度	1(4)	5,200	2	1,160	1(3)	2,000	1	1,330	5(7)	9,690
平成21年度	2(1)	3,800	2	770	1(2)	1,600	(1)	1,200	5(4)	7,370

単位：千円  
 直接経費のみ表示  
 ※( )は継続分で外数

## 2. 5. 2 技術相談事業

本校における技術相談：35 件

(平成 20 年度 27 件、19 年度 35 件、18 年度 12 件、17 年度 13 件、16 年度 14 件)

特別教育研究経費「企業技術者等活用経費」による技術相談、企業訪問等：175 件

教職員 OB による技術相談等の対応により、昨年度から始まった市原市との協働事業が継続実施された。

### 【点検評価】

不況下にも拘らず、共同研究・受託研究・寄附金・受託試験の全てでがんばっていると評価できる。来年度も厳しい景気の中で同様の頑張りが必要である。そのためにも、科学研究費の申請・独立行政法人科学技術振興機構などの競争的資金獲得への活動を積極的に展開すると共に、研究結果の公表等による PR 活動を推進する必要がある。

## 2. 6 その他外部機関との交流

### 2. 6. 1 高専間・大学間交流

- ・全国高専テクノフォーラム：8 月 6 日～7 日（高松）  
 出展：パネル展示および発表（高橋（秀）、上村、大野）
- ・関東信越地区テクノセンター長会議：9 月 2 日（長岡高専）  
 高橋（秀）

### 2. 6. 2 市町村との交流

- ・市原商工会議所地域力連携拠点事業開所式：4 月 10 日  
 高橋（秀）
- ・木更津異業種交流プラザ定期総会：4 月 17 日  
 高橋（秀）、上村、大橋、大野
- ・木更津異業種交流プラザ例会参加  
 丸岡(5/14)、鬼塚(6/11)、上原(7/9)、泉(9/10)、平安(10/8)、栗本(11/12)、  
 高橋（克）・五十嵐(3/11)
- ・袖ヶ浦市商工会・袖ヶ浦市倫理法人会：7 月 7 日  
 伊藤（裕）



- ・市原市工業振興課地域力連携セミナー：8月5日  
黒川・小平・植田（名誉教授 コーディネータ）
- ・市原市地域力連携拠点事業支援機関等連携会議：9月15日  
黒川（名誉教授 コーディネータ）
- ・君津商工会議所工業部会2009ビジネス交流会：10月21日  
高橋（秀）（産学官連携事例発表）、大橋、大野、生稲
- ・市原市工業振興課中小企業相談セミナー：12月21日  
黒川（名誉教授 コーディネータ）
- ・木更津商工会議所賀詞交換会：1月6日  
校長、高橋（秀）
- ・木更津異業種交流プラザ研修会・新年会：1月14日  
高橋（秀）、上村、大橋、大野、生稲
- ・木更津市との連携  
テレワークセミナー 11月 → 2.2.4項参照  
木更Conへの協力
- ・市原市地域力連携拠点事業中小企業連携フォーラム：3月17日  
高上、松井（名誉教授 コーディネータ）
- ・市原市地域力連携拠点事業支援機関等連携会議：3月24日  
高橋（秀）、生稲

### 2. 6. 3 県との交流

- ・千葉県中小企業団体中央会 地域力連携拠点事業第1回連携会議：4月21日  
高橋（秀）
- ・千葉県異業種交流融合化協議会 第17回通常総会及び経営力向上セミナー：6月4日  
高橋（秀）、生稲、三浦
- ・千葉県中小企業団体中央会 中小企業新連携推進県大会：10月14日  
高橋（秀）
- ・千葉県中小企業団体中央会 地域力連携拠点事業第2回連携会議：10月20日  
高橋（秀）
- ・千葉県中小企業団体中央会 中小企業団体交流大会：2月24日  
高橋（秀）（産学官連携事例発表）、大野、生稲、三浦
- ・千葉県中小企業団体中央会 地域力連携拠点事業第3回連携会議：3月12日  
高橋（秀）

### 2. 6. 4 委員会・フォーラム等への参加

- ・コラボ産学官千葉支部第2回通常総会：5月13日  
大野、生稲
- ・第8回産学官連携推進会議（京都）：6月20～21日  
岡本（保）（ポスター出展のみ）
- ・第5回コラボ産学官千葉支部連絡協議会：7月22日  
生稲
- ・千葉産業人クラブ「2009産学官シンポジウム」：11月16日  
高橋（秀）（シーズ・産学官連携事例発表）
- ・コラボ産学官第3回コラボ千葉フォーラム：11月17日  
高橋（秀）、青木（研究事例発表）、生稲、三浦
- ・コラボ産学官技術相談会：2月17日  
高橋（秀）、生稲
- ・第6回コラボ産学官千葉支部連絡協議会：3月11日  
生稲

## 2. 6. 5 その他

- ・技術振興交流会役員会：5月7日
- ・技術振興交流会総会：5月26日
- ・技術振興交流会役員と商工会議所への年始挨拶：1月12日  
高橋（秀）、生稻
- ・技術振興交流会役員会：1月28日

### 【点検評価】

昨年とほぼ同等の交流は実績である。

## 2. 7 広報事業

### 2. 7. 1 メディア作成

- ①2008年度事業報告（1,200部作成）
- ②2009年度ガイドブック（1,200部作成）
- ③Webページの更新（テクノセンターのページ）
- ④テクノセンターニュース第15号（150部作成）
- ⑤テクノセンターニュース第16号（150部作成）

### 2. 7. 2 メディア発信

- ①房総ファミリア新聞

### 2. 7. 3 公的機関の広報誌発信

- ①市役所の広報紙
- ②商工会議所等の会報

### 【点検評価】

例年通りの広報活動である。

## 3 ラボの稼働状況

平成13年度からの各ラボの使用状況を表3.1から3.8に示す。

表3.1 平成13年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	パルス型磁歪センサによる応力測定法の各種測定法の各種構造物への応用	黒川章二	学会発表等6件
2	超伝導を用いた高感度サブミリ波受信機の開発	石井孝一	
3	自動車ガラス除去に関する技術開発(君津マイカーセンター)	松村志真秀	特許出願
	カイロプラクティック施術の人体への影響	大藤晃義	

表3.2 平成14年度利用報告

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	EMセンサによる鋼材応力モニタリングについての研究	黒川章二	学会発表等3件
	光ファイバーセンサによるコンクリート歪みモニタリングについての研究		
2	卒業研究、特別研究で使用	石井孝一、小平眞次	
	誘電体位相器の設計	泉源	学会発表等2件
3	自動車ガラス除去に関する技術開発(君津マイカーセンター)	松村志真秀	
	カイロプラクティック施術の人体への影響の基礎研究	大藤晃義	学会発表等5件

**表 3.3 平成 15 年度利用報告**

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	モニタリングによるコンクリート建造物の補修について 光ファイバーセンサによるコンクリート建造物の変位	黒川章二	学会発表等 8 件
2	雲観測用 95GHzFM-CW モノスタティックレーダーの開発	石井孝一	学会発表等 3 件 (千葉大)
	誘電体位相器の設計	泉源	学会発表等 2 件
3	カイロプラクティック施術の人体への影響の基礎研究	大藤晃義	学会発表等 4 件

**表 3.4 平成 16, 17 年度利用報告**

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	塩害劣化環境に位置する RC 建造物の維持管理手法の構築 (東電工業株式会社)	黒川章二	学会発表等 2 件
2	雲観測用 95GHzFM-CW モノスタティックレーダーの開発 (千葉大)	石井孝一	学会発表等 6 件 (千葉大)
3	人体のバイオメカニクス的研究介護予防の身体へ及ぼす影響 (マニュアルメディスン研究所, 徒手医学研究所)	大藤晃義	学会発表等 9 件

**表 3.5 平成 18 年度利用報告**

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	塩害環境下におけるコンクリートの維持管理に関する研究 (東電工業株式会社)	青木優介	学会発表等 2 件
2	雲観測用 95GHzFM-CW モノスタティックレーダーの開発 (千葉大)	石井孝一	学会発表等 6 件 (千葉大)
3	人体のバイオメカニクス的研究介護予防の身体へ及ぼす影響 (マニュアルメディスン研究所, 木更津市役所)	大藤晃義	学会発表等 7 件

**表 3.6 平成 19 年度利用報告**

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	塩害環境下におけるコンクリートの維持管理に関する研究 (東電工業株式会社)	青木優介	学会発表等 3 件
2	人体のバイオメカニクス的研究、介護予防の身体へ及ぼす影響 (マニュアルメディスン研究所, 木更津市役所)	黄野銀介	未提出
3		真直度測定器の開発	黄野銀介、鈴木聡
4	共同測定室		未提出

**表 3.7 平成 20 年度利用報告**

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	塩害劣化等により鉄筋にマクロセル腐食が生じた部材の診断・補修・補強方法の開発に関する研究 (その 2)	青木優介	学会発表等 5 件
2, 3	真直度測定器の開発	黄野銀介、鈴木 聡	学会発表等 2 件
2, 3	・人体のバイオメカニクス的研究 ・介護予防の身体へ及ぼす影響	黄野銀介	学会発表等 9 件

**表 3.8 平成 21 年度利用報告**

ラボ番号	研究テーマ	報告者	成果
1	(実験実習センター改修工事による仮移転先として利用)		
2	(実験実習センター改修工事による仮移転先として利用)		
3	・人体のバイオメカニクス的研究 ・高強度鋼板の打ち抜き端部からの破断機構の解明	黄野銀介	学会発表 学会発表等 4 件

**【点検評価】**

21 年度は、第 3 ラボ以外が実験実習センター改修工事による仮移転先として利用された。第 3 ラボでの研究活動は、継続テーマとして展開されている。また、共同測定室の利用状況および鍵の管理を徹

底する目的で、鍵の貸出し簿と使用測定器の記録を一体化させた使用記録簿を総務課に設置した。

## 4 課題

- (1) 共同利用施設の利用頻度向上
- (2) 技術振興交流会のレベルアップ講座の開催数の増加
- (3) ラボの装置，電子顕微鏡の管理体制見直し
- (4) 特許取得および競争的資金獲得に関する啓蒙活動

## II 運営委員会の実績

第1回 4月21日    第2回 5月19日    第3回 6月16日    第4回 7月9日  
第5回 9月29日    第6回 11月12日    第7回 12月14日    第8回 1月26日  
第9回 3月10日

## III 運営委員会委員と事務部担当

センター長	高橋 秀雄 (機械工学科)	
副センター長	大野 貴信 (電気電子工学科), 大橋 太郎 (電子制御工学科), 上村 繁樹 (環境都市工学科)	
センター委員	五十嵐譲介 (人文学系)	嘉数 祐子・高橋 邦夫 (基礎学系)
	丸岡 邦明 (機械工学科)	岡本 保 (電気電子工学科)
	坂元 周作 (電子制御工学科)	天摩 勝洋 (情報工学科)
	島田 良雄 (事務部長)	
事務部	須磨 宏信 (総務課長)	
	生稲 一芳 (研究協力・地域連携係長)	三浦 創 (総務係)